

平成 30 年度 加古川南高校 インスパイアハイスクール事業

活動報告

事業 : English Training Camp
実施日 : 平成 30 年 8 月 27 日 (月) ~ 29 日 (水)
場所 : 明石市立少年自然の家
参加者 : 28 名 (本校生徒 22 名、大学生 6 名)

この合宿では 3 日間英語を使って過ごすことを中心とし、特に英語を聞くことや話すことへの抵抗を減らしていくことを目的としています。今年はたくさんの生徒が参加を申し込んでくれたおかげで、賑やかな雰囲気で行うことができました。

【初日】

まずは大学生が企画をした活動で合宿がスタートしました。ある人が質問をしてボールを投げ、受け取った人が質問に答えるといった形で、みんなが参加者のことを知っていくというゲーム。また、ある参加者の背中に有名人やアニメのキャラクターを貼り、その人が何を貼られたかわかるように周囲が英語でヒントを与えていくというゲーム。

その後、ロールプレイを通して複数の人間と予定を立てたり、相手を説得したりする練習や、絵を見ながら状況説明をする練習をしました。初めは恥ずかしがって動けなかったり、声が小さかったりという状態でしたが、活動を続けていくうちに徐々に雰囲気が良くなっていきました。

夜には、大学生 3 人に留学の体験談をしてもらいました。様々な国での経験・思い出を聞いて海外への興味をさらに強く持った生徒も多くいたようです。

就寝前には、「高校卒業後にしたいこと (夢・目標)」というテーマで自分の思いをまとめることを宿題として指示し、その日の活動を終わりました。

【2日目】

午前中の活動として、まずは新しく着任した ALT から自己紹介、そして出身地である南アフリカのことについて話をしてもらいました。南アフリカではたくさんの言語があること、そして発音の仕方に特徴があることを知りました。その後、状況説明の練習やリスニング活動を行いました。

昼からは、大学生企画の”Pictionary” (英単語の意味を説明するゲーム) を実施した後、さらにスピーキング活動を続けました。この頃にはだいぶ慣れてきたのか、ペアやグループ活動でも笑いが起きたり、止まらず話し続けたりする様子が見られるようになりました。

昼の最後の活動として簡単な劇をしましたが、それぞれが台本を可能な限り覚え、観客に向かって大きな声で演じる姿を見て、参加者たちの成長を感じました。

夜には、”What is the strong and weak point of Kakonan?” というテーマで、翌日のプレゼンテーションに向けて準備を始めました。大学生たちのサポートを得ながら、それぞれのグループがアイデアをまとめていきました。プレゼンテーション資料を作るとき表情はまさに真剣そのもので、驚くべき集中力を見せました。(終了の合図を出してもしばらくは作業が続きました。)

【3日目】

いよいよプレゼンテーションの日がやってきました。どのグループも本校の強み・弱みを理由や改善案を添えて発表していきました。職員としては本校の活動に対する思いが聞けたという点、生徒にとっては自分が通っている学校を見つめなおすことができたという点で、意味のある活動を行うことができた、と思いました。最後に、初日に与えた宿題をみんなの前で発表させて、合宿を終えました。

【キャンプを終えて】

日々の授業や考査を通じて、リーディングやリスニングには自信を持っていてもスピーキングになるとなかなか思うように力を発揮できないという生徒はたくさんいます。今回の合宿を通して、とにかく間違ってもいいから話してみる、そして苦しみながらも徐々に1語、2語と話せる語が増えてくる実感を持ってもらう。そのねらいを持って行った合宿ですが、3日間を通して見られた参加者の表情や活動に対する姿勢の変化から、多くの生徒にとって一定の成果が得られたのではないかと感じています。

特に今回は参加者が多く、活動の幅が大きく広がったこと。そして大学生が積極的に参加者に寄り添ってサポートをし続けてくださったことが合宿成功の要因だと思います。来年度もたくさんの生徒が参加してくれることを期待しています。

【活動写真】



